

燕市西蒲原郡小学校教育研究会 図画工作部の活動

部長 土田 敬彦（燕市立島上小学校）

1 研究主題

子どもの表現したいという思いをかきたてる題材の工夫

2 研究の概要

(1)第1回 講演会 期日：6月1日（水） ＜会場：分水北小学校 参加17名＞

演題『子どもの思いをかきたてる題材の工夫』

講師 山田 哲哉 様（新潟市教育委員会学校支援課 指導主事）

I 理論編

図画工作科における学力、問題点、新指導要領改訂のポイントと評価、教師の役割など、貴重な資料をもとにご指導いただいた。

II “子どもの思いをかきたてる” 題材紹介

作品例、指導計画、指導のポイント等について、豊富な実践例を基にご指導いただいた。



(2)第2回 授業研究会 期日：11月30日（水） ＜会場：弥彦小学校 参加17名＞

授業者 大川原梨乃 教諭 （弥彦小学校）

題材名 4年「ざいりょう物語 ～タイムカプセル作り～」

① 本時の概要 （本時4／4時）

材料の特徴を活かした飾りや接着方法等を工夫し、10年後の自分へのタイムカプセルを作る。

② 協議会より

- “2分の1成人式”と関わらせて、「10年後の自分へのタイムカプセル作りをしよう」という意識付けが、活動への目的意識や必要感を高め、“思いをかきたてる”ことに有効につながっていた。
- 途中で作品を紹介し合ったところがよかった。材料の活かし方や扱い方（接着方法等）について自分以外の表現や方法に気付かせるよい働きかけだった。
- 材料集めに時間をかけてもっと材料を多様にする方法もあったが、反面、材料の種類が少ないことで、その活かし方や扱い方についての交流（見せ合い・話し合い）が具体的になった。

③ 助言 （顧問 島上小学校 土田敬彦）

- 本時のように、その子なりの表現に共感し、自己肯定感を高めることは、図工の大切な働きである。
- 教師はその子の願いを見取り、願いの実現を支援する中でその子の成長を支援することが大切。
- 「10年後の自分へ」という意識付けが、生き生きとした姿を生み出すとてもよい働きかけだった。
- 10年後に伝えるという設定を活かし、強度などの観点から作品の見直しを促すこともできた。
- 実際に作品を見せ合いながら、話し合わせた場面は、図工らしい言語活動の充実につながっていく。